



## チェアエクササイズを全員で実践

第 11 回県民公開講座 (第 87 回会員研修会)

第 29 回機能訓練指導員実務研修会 (第 12 回フォローアップ講習会)

2 月 19 日 (日) 午前 10 時 30 分より正午まで、第 11 回県民公開講座・第 29 回機能訓練指導員実務研修会が開催され、192 名(会員 190 名・勤務柔道整復師 2 名)が参加した。



介護部主導の県民公開講座と 3 月に開催予定の機能訓練指導員実務研修会がほぼ同じ内容となるため、経費の節減という面も考慮して、今回は両者の併催という形になった。

各市町での総合事業の準備や開始に伴い、柔道整復師は何かできるのか、認知症予防に対してどんなことができるのか、そんな問いかけが地域の担当者によく投げかけられる。それに対応するために介護部では今回、「柔道整復師が行う認知症予防機能訓練」と題して実践指導を中心に研修を行なうことになった。



講師を長瀬理次介護部長・加藤博史研修会委員が務め、その他の介護部員と研修会委員が、正面ほか 2 か所で運動の見本を示した。

運動には海馬の萎縮を抑制する効果が認められており、特に有酸素運動が有効である。加藤委員が運動を継続するためや安全に運動するためのポイントを説明したあと、長瀬部長が椅子を利用した機能訓練(チェアエクササイズ)でのストレッチや主運動(有酸素運動)、筋力トレーニングを解説し、デュアルタスクとしてのステップ運動プラス引き算や、コグニサイズでのラダー体操を説明した。



今回はスペースをとらない椅子での運動が中心であったため、参加者全員がスライドや模範動作を参考にしながら熱心に体験学習をした。

認知症予防の機能訓練の重要な要素のひとつは、「楽しい環境下での運動は脳にいい影響を与える」ということである。モデルの部員らが間違えたり、講師がユーモアを交えて説明したりして会場に笑いが巻き起こり、また退屈な座学ばかりでなく聴講者が実際に体を動かしての研修会は、まさにそれを体現したような非常に楽しく充実した内容であった。

## 知らないことほど怖いものはない

第 4 回業界説明会  
-皆さんの未来のために-

2 月 5 日 (日) 午前 10 時から 12 時まで、本会講堂で第 4 回業界説明会(皆さんの未来のために)が開催され、県下の個人契約者 32 名と会員施術所の勤務柔道整復師ら 13 名の、合わせて 45 名が訪れた。目前に控える制度改革や頻発する不祥事などへの関心の高さから、昨年の 1.5 倍の参加者が聴講した。

正しい情報を迅速に入手できない柔道整復師は、療養費支給申請に対する考え方や申請の仕方などに関して知らないことが多い。さらに、知らないことに気づかずに「よい」と思ってやっている行為をそのまま続ければ大きな代償を払わなければならないという怖さも知らない。執行部は現状をそのように分析し、今回のメインテーマを「知らないことほど怖いものはない」とした。

早川総務部長の司会進行のもと、森川会長は冒頭、モンゴル国立医療科学大学での伝統医療セラピー科の新設や、直近に起きた自賠責詐欺事件など、最近の動向を紹介し、業界の健全化や組織力の重要性などを説いたのち、本論である 4 つのテーマの概要を説明した。

### ■ 中日新聞が説明会を取材 ■

中日新聞編集局社会部より記者 1 名が会場を訪れ、約 1 時間半にわたって取材をしていった。自賠責詐欺事件の掲載にあたり、数日前に業界の実情を聞きに来館。その際の本会からの情報提供によるものだ。業界への関心の高さがうかがえる。

## Welcome!!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
赤根広昇	S57.5.4	岡崎	中部柔整	—	剣道 映画鑑賞



## 久野 勝元理事 医療功労賞を受賞

大悟接骨院院長  
久野 勝さん 75

**地域の健康づくりを支える**

脱臼や捻挫などを施術する柔道整復師を 50 年以上にわたって務めている。「思ってもいなかった受賞に、大変責任を感じている。支えてくださった多くの皆さんのおかげ」と受賞を喜ぶ。

小学生の時にすべり台から飛び降りて肘を骨折し、接骨院に通った。高校を卒業後、車製造会社に数年勤め、休日にかかとを骨折し、同じ接骨院で施術してもらったのを機に、柔道整復師を目指した。

75 年に独立し、同市守山区に大悟接骨院を開業し、これまでに県柔道整復師会の常任理事などを務めた。

96 年に資格を取得し、名古屋市中区に接骨院で 10 年間、技術を高めた。貨物船の荷役作業員が通院できない時に、名古屋駅近くの宿泊所まで自車で往復した経験もある。

久野 勝・元理事(大曾根)が本会の推薦により、豊川市の理学療法士とともに地域の医療活動に長年尽力した人に贈られる「第 45 回医療功労賞」を受賞した。久野会員は、昭和 40 年に本会に入会し、昭和 50 年に守山区大森にて大悟接骨院を開業。

昭和 60 年、理事に就任し保険部を担当。昭和 66 年から 4 年間、常任理事・経理部長を務める。

理事退任後は支部の顧問として後進の道しるべとなり土台を支えている。

1 月 27 日付、讀賣新聞より



2 月 6 日には、名古屋観光ホテルで表彰式が行われ、久野会員は「受賞を機にもう一度身を引き締めて、体力の続く限り地域の健康づくりに貢献したい」と語った。

受賞式後、奥様と愛整会館を訪れ、森川会長に受賞の報告とともに御礼を述べた。



### 1. 公的審査会権限強化への対応 (藤川副会長)

柔整療養費専門検討委員会での討議事項や平成 29 年度の制度改革の概要を説明。特に公的審査会の権限が強化され、「部位転がし」や架空請求の調査が厳しくなるので、適正な請求を心がけてほしいと訴えた。



### 2. 返戻されない申請書の書き方 (長谷川副会長)

申請書の疑義返戻のうち多いものの傾向と内容を紹介し、正しい記載方法を詳述した。正しい請求は正しい施術録に依拠し、正しい施術録は正しい施術から生まれるので、柔道整復術に基づいた請求をしなければならないと述べた。



### 3. 自賠責保険、正しい請求書の書き方 (山口保険部長)

自賠責保険の概要を説明した後、事故の状況や程度、車の破損状況等の記載など、自賠責の施術録の書き方を具体的に説明し、施術録の記載内容どおりに請求書を作成することや、施術録こそが請求の根拠となるので正確に聴取し記載することが重要だと述べた。



### 4. 介護予防事業、参入方法と展望 (長瀬介護部長)

増収対策や新たな職域として、本会の事業参入状況を紹介し介護予防事業について説明するとともに、組織での活動の重要性を強調。特にミニデイサービス参入の可能性を詳述し、接骨院の新たな形を提示した。